

[041]九州大学総合研究博物館ニュース

<https://hdl.handle.net/2324/7170871>

出版情報：九州大学総合研究博物館ニュース. 41, pp.1-, 2024-03-11. 九州大学総合研究博物館
バージョン：
権利関係：



NEWS

The Kyushu University Museum

九州大学総合研究博物館ニュース

No.
41
March, 2024

箱崎サテライト旧工学部本館改修へ

箱崎サテライト旧工学部本館の改修の基本計画ができつつあります。博物館もその一角を占め、令和6年度は改修の実施計画の策定、令和7～9年度で改修を終え、令和10年度には博物館もリニューアルオープンする予定です。4月からは、館長も人間環境学研究院の堀賀貴教授にバトンタッチします。旧工学部本館の改修が順調に進むことを期待します。

総合研究博物館第9代館長 宮本 一夫





「まちの学芸員」との共創協学

～「地域共創協学デジタル化基盤整備事業」実施報告～

三島 美佐子 分析研究部門・教授／二宮 聡 地域共創協学デジタル化基盤整備事業・事業コーディネーター

「文化庁 博物館機能強化推進事業 Innovate Museum」の支援を受け、本館を中核館として「地域共創協学デジタル化基盤整備事業」(以下、本事業)を実施しました。

本事業は博物館と「まち」のつながりを念頭に、Innovate Museumで注力されているDXやDBなど、デジタルの展開も取り込みました。

共に創りつなげる仕組みとして、市民の方がボランティアに事業へ参画する枠組み「まちの学芸員」を設定しました。資格や年齢などにかかわらず誰もが登録できるものとし、個々人の興味・関心に合わせて事業に加わっていただきました。現在までに、30名に登録いただいています。

本事業では4回の「まちの学芸員」募集説明会、「まち de ミュージアム」「緑のねっこワーク」の二つのワークショップ、音声コンテンツ「博物館ラジオ」制作を柱にしました。募集説明会では、ゲストによる博物館や「まち」に関わる話題提供と、デジタルツールの体験ワークを組み込みました。「まち de ミュージアム」では、「まちの学芸員」と一般参加者がまちを歩いて見つけた“気になるもの＝まちのカケラ”を、スマホで写真に収めInstagramで共有、集められた「まちのカケ

ラ」からそれぞれの「ナラティブ(物語)」を描きました。「緑のねっこワーク」では、街路樹や植栽など「まちの緑」の思い出を共有する対話の後、写真を元に手を動かして「こんなまちの緑があったらいいな」を形にしていきました。「博物館ラジオ」では、募集説明会のトークを素材として、動画作成のプロの指導の下、「まちの学芸員」が編集体験やナレーション録音を行い、番組を作成しました。

当館企画の柱となる催しが終了した後、「まちの学芸員」の自主企画「緑のねっこワークⅡ～ミライへの思いをカタチに～」も開催されました。共に創り、協力して学んだ「まちの学芸員」が、内容の企画・設計、ワークショップの進行・運営を主体的に担いました。

「まちの学芸員」との共創協学を通して、当館がかかげる地域の生涯学習の拠点の役割を担うという将来計画に向けた、多くの知見を得ることが出来ました。参加者からの意見を取り入れた、デジタルツールに初めて触れる人向けのテキストブックも作成し、事業終了後も市民や連携主体の間でのノウハウの活用を目指しています。

①②③ ワークショップの様子／④作成したテキストブック／⑤説明会の様子

COLUMN①



令和6年度九州大学総合研究博物館公開展示開催！

「九大1万年史—発掘された九州大学筑紫キャンパス内の遺跡—」

福永 将大 開示研究部門・助教

令和6年度九州大学総合研究博物館公開展示を、大野城心のふるさと館のご協力のもと、2024年4月27日(土)～6月16日(日)に開催いたします。

筑紫キャンパスで見つかった御

供田遺跡を中心に、各キャンパスにおける最先端の発掘調査研究成果に基づいて、九州大学創立以前の過去1万年にわたる歴史についてご紹介いたします。また、古生物・鉱物・植物・昆虫・古人骨

の各分野の九大博教員がイチ押しの収蔵品を展示する「えりぬき九大博～教員イチ押しの収蔵品～」のほか、会期中にワークショップや講演会も実施します。皆様のご来場をお待ちしております！

博物館特別展示

「東区鉄道史—福岡市内線・地下鉄とJR九州の歴史—」を開催して

牟田 智哉 九州大学鉄道研究同好会副会長

日時 ● 2023年9月19日(火)～10月20日(金) / 主催 ● 九州大学鉄道研究同好会 / 共催 ● 同大総合研究博物館



私共、九州大学鉄道研究同好会は、「鉄道を手段でなく目的として楽しんでもらうこと」を目標に、九州各地の鉄道資料の保管のほか、大学周辺の公民館・商業施設にて模型運転会、鉄道にまつわる資料の展示を行っております。

今回は、福岡市、特に東区にまつわる鉄道資料を一般の方々にご覧いただき、現在は福岡市の一大ベッドタウンとして発展する東区と、その地域を形作った東区の鉄道の歴史を紹介すべく、九州大学総合研究博物館のご協力のもと、本展示を開催する運びとなりました。

展示内容は、JR鹿児島本線・篠栗線連続立体交差事業、西鉄宮地岳線香椎駅周辺連続立体交差事業にまつわる

写真展示、西鉄福岡市内線の走行風景及び市内線にまつわる資料、そして、国鉄・JR九州・福岡市地下鉄に関する資料展示です。在りし日の箱崎キャンパスと鉄道の走行風景が写る写真などを多く取り入れており、鉄道に興味のある方、また、東区や箱崎キャンパスに思い入れのある方など、様々な方に楽しんでいただけたのではないかと存じます。

最後になりますが、本展示の開催にあたりご尽力くださった九州大学総合研究博物館の職員の方々、そして資料提供してくださった大田治彦九州大学名誉教授への感謝をもって、結びの挨拶に代えさせていただきます。



① 当展示入口のパネル / ② 会場の様子



ミニ展示

「近世・近代植物描画」

三島 美佐子 分析研究部門・教授 / 林 史子・野藤 妙 技術補佐員

日時 ● 2024年1月15日(月)～2月29日(木)
主催 ● 九州大学総合研究博物館、九州大学医学図書館
共催 ● 科学基盤B「東アジアの Multidisciplinary Science としての本草学の再構成」

「本草学」は、自然物を薬として用いる学問を起源とする、現代でいうところの薬学・医学や自然科学です。この展示は、当館教員が参画している科学研究のアウトリーチとして開催されました。この研究は、本草学者達の巨大な知のネットワークを紐解き、当時の歴史・文化を帰納的に解明することを目的とした学際研究で、図譜などの資料も重要な研究対象の一つとなっています。医学図書館が所蔵する近世・近代の本草書や当館が所蔵する近代の科学描画などを組み合わせ、本草学から現代科学へと移行行く過程における植物描画の表現を比較・鑑賞することを目的として開催しました。農学部所蔵黒田家由来の「本草正画譜」(内海蘭溪作)、昨年

のシーボルト来日200周年にちなんで「Flora Japonica」はじめ8種の図譜・描画等を出展。うち5種については資料保護を兼ね、毎週金曜日にページをめくり、SNSで毎週発信しました。展示終了した現在も、当館のXやFacebookなどでお楽しみいただけます。会場には、原図から起こした線画の塗り絵も設置していました。今年秋には、さらにパワーアップした本草書展が、馬出キャンパスにて医学図書館主催で予定されています。



フジギャラリー冬季企画展

「モンゴル高原の牧畜社会の始まりを探る —九州大学海外発掘調査隊の記録—」

米元 史織 分析研究部門・助教／宮本 一夫 大学院人文科学研究院教授・総合研究博物館館長

期間 ● 2023年12月4日(月)～2024年3月25日(月)／主催 ● 九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室／共催 ● 同大学総合研究博物館



フジギャラリーG2の冬季展示として、当ギャラリーで初となる学内研究者の調査成果展示が行われました。九州大学大学院人文科学研究院の宮本一夫先生の研究グループによる15年に及ぶ最先端の考古学・人類学の学融合研究の成果展示です。

宮本先生は2008年から2010年にかけて東チベット地域(中国四川省西部)で青銅器時代の遺跡の発掘を行いました。これは九州大学で初となる海外での発掘調査でした。この発掘調査によって、東チベット地域から雲南・ベトナムへ広がる青銅器文化が、紀元前2千年紀後半の北方青銅器文化に起源することが明らかとなりました。この発見を基に北方青銅器文化は、ユーラシア草原



地帯西部から牧畜文化とともにモンゴル高原へ、さらに中国長城地帯へと広がったのではないかと考え、2009年からモンゴル高原において青銅器時代墓の発掘を開始しました。そして、コロナ禍による少しの中断を経て2023年まで、15年間にわたる継続的な海外発掘調査・研究を行いました。この考古学と人類学との国際的・学際的研究により、ユーラシア草原地帯の墓制の変化とそれに伴う人の移動、さらには社会の変化が明らかになりました。牧畜社会が歴史的に東西をつなぐ重要な役割をはたしてきたことを示す世界的に重要な研究です。

本展示では、発掘調査成果を詳細に説明した後に3D技術を活用し墓の構造などを立体的に把握できるような仕組みをつくり、さらにドローン調査成果を大型スクリーンに投影することで草原地帯の圧倒的なスケール感を可視化しました。また、調査によって出土した古人骨の自然人類学的調査の成果まで子細に説明した展示はまさに最先端技術を用いた学融合研究と言えます。

フジギャラリーは学内の研究者の研究成果を広く社会に公開するアウトリーチ活動を促進する一施設として今後も研究成果の公開希望をお待ちしております。



① 展示タイトルと主催の宮本一夫先生／② 古人骨展示風景／③ 展示室全景

COLUMN②

総合知とデザインと未来



技術をどのように使うか、どのように社会に適応させていくか、そのためにはどのようなコミュニケーションが必要かを、総合知としてのデザインの立場から、具体的なプロダクトデザイン、グラフィックデザイン、サー

ビスデザイン、社会づくり・未来づくりのデザインとして考えます。

ダイレクト・エアー・キャプチャーやアップコンバージョンなどを技術を利用した未来社会のデザイン、学生が考えた未来のモビリティやロボット、

交通、その他製品デザインやグラフィックデザインなどを展示します。

未来社会を一所懸命考えた妄想する・構想するデザインを御覧ください。

皆様のご来場をお待ちしております！

尾方 義人 九州大学大学院 芸術工学研究院・教授
期間 ● 4月1日～5月1日／会場 ● フジギャラリー

「白亜紀の黄昏—前田晴良副館長 退職記念展示—」

絶滅直前のアンモナイト化石公開！

前田 晴良 開示研究部門・教授

期間 ● 2024年2月16日(金)～2024年5月31日(金)／主催 ● 九州大学大学総合研究博物館



伊都キャンパス・フジギャラリーG1で、白亜紀最末期のアンモナイト化石(サハリン産の実物!)を、直接手で触れることができるハンズオン形式で展示します。

中生代も終わりに近づいた白亜紀後期(約1億年前～6,600万年前)には、恐竜が絶滅に向かっただけでなく、陸上植物や海洋生物でも大きな生態的変革(中生代の海洋革命; Mesozoic Marine Revolution)が起きていました。それを解明する鍵を握っているのが北西太平洋地域です。中でも、北海道からサハリンにかけて広く分布する白亜系・蝦夷層群は、北太平洋西岸沖合の深さ数百mの海底で連続的に堆積した厚さ5,000mに達する地層で、その中に化石群の時代的変遷のようすが克明に記録されています(写

真1)。九州大学は、1930年代に着手した故・松本達郎名誉教授の先駆的研究を皮切りに、他に先駆けてサハリンの蝦夷層群とその化石群の調査に取り組み、その研究をリードしてきました。現在も、他の研究機関と協力してサハリンにおける国際共同研究プロジェクトを推進しています。その結果、極東地域の最後のアンモナイトを確認するなど、「白亜紀の黄昏」を示す絶滅直前の化石群の実態が次第に明らかになりつつあります。

今回展示する化石標本は、1990年代に戦後初めてロシア共和国サハリン州で実施した日ロ共同研究(海外学術調査)で採集し、ロシア政府の正式な許可を得て日本に持ち帰った貴重な標本です(写真2)。サハリンの地層と化石の調査研究は現在も継続中で、展示標本はいままさに研究中の“バリバリ”の現役”です。中生代に栄えた多くの生物が次第に衰退してゆく中で、最後の輝きを放った絶滅直前のアンモナイト数種の実物化石をぜひご覧下さい[入館無料]。



COLUMN③

続・雅俗繚乱—江戸の秘本・珍本・自筆本—

九州大学附属図書館

期間 ● 5月10日～6月29日／会場 ● フジギャラリー



故中野三敏九州大学名誉教授が長年蒐集した江戸期和装本を中心とするコレクション「雅俗文庫」の展示会を開催します。「雅俗文庫」は、和歌・漢詩・擬古文など伝統文化にあたる「雅」、俳諧・川柳・小説など新興文化にあたる「俗」

の双方を収め、珍本・奇本も多く含んでいます。江戸文化に関心のある者にとって宝物のような多彩な資料群です。

本展示会では、「雅俗文庫」を、多色刷、大田南畝、名家の自筆資料、写本随筆、春本、ハウツー本といった切り口で紹介

します。5月18日(土)には江戸時代の思想・文学をご専門とする川平敏文教授(九州大学人文科学研究院)によるギャラリートークや講演会も予定しています。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

COLUMN④

史料保存運動の軌跡が紡ぐもの—九州文化史90周年記念展—

木土 博成 比較社会文化研究院・准教授／梶嶋 政司 記録資料館九州文化史資料部門・助教

期間 ● 7月10日～9月10日／会場 ● フジギャラリー



九州大学は、これまで30万点におよぶ貴重な古文書(こもんじょ)などを収集し、整理と保存、研究をすすめてきました。とりわけ九州地域の史料センターとしての役割を果たしてきたのが、記録資料館九州文化史資料部門です。同部

門の前身である九州文化史研究所は1934(昭和9)年に創設され、本年でちょうど90周年を迎えます。本展示では、九州文化史研究所から九州文化史資料部門に至る90年間の史料保存運動の軌跡を紹介するとともに、当部門が所蔵

する貴重な古文書を展示します。

過去の人々の暮らしや思考の多様性、自然災害やパンデミックへの工夫や対応など、実物の古文書から読み取ることができる情報は、現代社会を生きる我々とその未来に何を問いかけるのでしょうか。



退職に寄せて

博物館長退任のご挨拶

宮本 一夫 総合研究博物館第9代館長



2021年4月から緒方一夫館長の後を継ぎ、2期3年間館長を務めさせていただきました。2020年9月に総合研究博物館が箱崎サテライトに拠点を置くことが全学で認められた段階で、館長に就任しました。折しも新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっているさなかで、博物館も閉館を

余儀なくされていた時期です。まず、箱崎サテライトに拠点を置くことで、2021年4月には、全学の企画委員会のもとに、博物館の将来構想ワーキングが作られました。将来構想ワーキングでは同年6月には将来構想の基本方針を決定し、それに基づいて将来構想の策定を進めました。2022年11月には将来構想が企画委員会で、ついで役員会で承認されました。将来構想に従い組織改組を行い、「分析研究部門」「開示研究部門」の2部門に編成し直し、2023年4月から組織変更しております。

将来構想を策定していた間、伊都標本資料研究・教育ブランチャ(以下、伊都ブランチャと略称)の建設が2022年4月に認められ、2023年3月に竣工しました。その後、学外に別置されていた工学機械や什器類を8月には伊都ブランチャに移設し、10月には北海道三笠市

に別置していたアンモナイト化石資料を、12月には京都大学に別置されていた同じくアンモナイト化石資料などを伊都ブランチャに移設することで、懸案であった学外に分散していた収蔵資料をすべて九州大学に集約することができました。今後、ブランチャを、伊都キャンパスの学生・教員の教育・研究の場として活用して参ります。

一方、長く閉鎖していた箱崎サテライトの常設展示室も、新たに工学部旧本館1階の廊下展示を加えて、2022年1月から再開しております。また、2020年3月に竣工しておりましたフジイギャラリーも、コロナ感染症拡大のため運用を延期しておりましたが、2021年7月にはプレオープン、2022年5月からは本格的な運用を行っています。博物館による企画展とともに、学内の研究成果を公開する場としての役割が期待されています。それを推進するために、私個人の研究成果を「モンゴル高原の牧畜社会の始まりを探る」と題して公開したところでした。同じく延期していた公開展示も、2022年7月に大野城心のふるさと館で「九大のお宝、みつけた」と題して再開しました。このように、ポストコロナの中、総合研究博物館でも新たな企画を進め、旧来以上の活動の場が広がっております。総合研究博物館は、箱崎サテライト、フジイギャラリー、伊都ブランチャの3施設で活動が可能になったところです。

箱崎サテライトは、当初の計画から1年遅れ、令和7年度から3年間をかけて旧工学部本館を改修し、令和10年度から総合研究博物館をリニューアルオープンする予定です。すでに常設展示の基本構想をまとめ、旧工学部本館での博物館の配置計画も固まりつつあります。今後は、この基本計画に基づき、リニューアルオープンに向けて改修の実施計画そしてその実施が期待されるところです。

COLUMN⑤



ランドセル展を開催しました

遠藤 はな 共創学部3年／鎌田 美萩・吉良 遥香 共創学部1年

2024年2月7日～2月20日に、九州大学伊都キャンパス・フジイギャラリーにて、共創学部生有志企画「人とモノのものがたり ランドセル展」を開催しました(この企画は、共創学部の助成金KAPPAを受

けて実施しています)。ワークショップも同時開催した始め3日間では、約60人ほどの方に鑑賞頂きました。本来ランドセルは“6年間”“背中に背負われる”ために作られますが、インタビューを通じて

見えてきた、その役目を超えて紡がれるランドセルと人のものがたり。展示では、そんな奥ゆかしく温かい“ものがたり”を思い出してもらえようような空間を作れたのではないかと思います。

フィールド研究の前線基地

前田 晴良 開示研究部門・教授(副館長)



私は2024年3月で九大総博を定年退職します。九大総博に勤務した12年間、同僚の先生・事務職員・技術補佐員の方々には大変お世話になりました。私自身の研究や学生指導においてフィールド調査(写真1)は必須でした。そのため、毎年、長期にわたって博物館を不在にする“出稼ぎ労働者”スタイルを押し通し、多方面にご迷惑をおかけしたことをまずお詫びします。博物館の皆さまの暖かいフォローのおかげで、無事に定年を迎えられたことを心から感謝します。

九大総博では、自由な研究環境が保証されていたことが何よりありがたかったです。在職中、学内ではキャンパス移転時の標本問題、学外では日本古生物学会会長など様々な業務を仰せつかりました。その合間を縫って、本業の北海道・サハリン地域以外にも、国内外のさまざまなアンモナイト化石産地を尋ねました。そして、これまで日本の大学や博物館にはなかった化石を多数採集して持ち帰れたことが何よりの思い出です。例えば2013年には、米合衆国ネバダ州の砂漠の中でコヨーテ



の声を聞きながら2週間キャンプし、三疊系を調査しました。その際、一山越えた先にある新ルートに挑み、ようやく三疊紀(T)とジュラ紀(J)の境界(写真2)にたどり着いた時の感動は今も鮮明に覚えています。写真2の★印の層準から産するプシロセラス(白枠内)は、ジュラ紀の始まりを定義する重要な示準化石ですが、その保存良好な化石の実物は日本の大学・博物館にはありませんでした。いま、持ち

帰った100個体以上の標本を分析中です。

学術調査で収集した標本は、クラウドファンディング：オールアンモナイトプロジェクト(2018年)で集めた化石とともに、化石標本閲覧室で展示中です(写真3)。またこれらの化石は、専門科目や博物館科目の講義・実習に利用されるだけでなく、他の博物館への貸出や、他大学の学生・大学院生の研究にも供されています。

他方、フィールド研究は私の専売特許ではありません。考古学や昆虫学など、他の分野の先生も野外研究の達人揃いで心強かったです。そのため九大総博は“物流倉庫”のような活気と雑然さに満ちていました。“産地直送”の標本・資料がトラックで旧工本館や新築の伊都研究教育ランチに頻繁に運び込まれ(写真4)、廊下で荷解が始まります。さらに伊都キャンパスで講義・実習があるたびに、標本が箱崎—伊都の間を行き交います。一般に持たれる「静的」なイメージとは異なり、大学博物館は「研究教育の拠点」であり、標本・資料など“知的資材”を活用する物流拠点としての役割、さらにフィールド研究の拠点としての「動的」な機能が求められます。私にとって九大総博は、「フィールド研究の前線基地」そのものでした。その意味で、九大総博のある箱崎地区の名称は「箱崎サテライト」ではなく、「箱崎ベース(=基地: Base)」が良かったのではないかと今でも思います。あくまで私の個人的な意見ですが、九大総博はようやく軌道に乗ってきましたが、まだまだ前途は多難です。しかし九大総博のスタッフは精鋭揃いです。きっと問題を乗り越え、九大総博をますます発展させてくれると確信しています。



① フィールド調査風景(モロッコ)

② 三疊紀(T)・ジュラ紀(J)の境界露頭。黄色い破線がT/J境界

③ 化石標本閲覧室

④ 5トンコンテナによる標本の搬入(伊都ランチ)

博物館の活動記録

Activities of Exhibitions & Conferences

特別展示

- 「東区鉄道史 ―福岡市内線・地下鉄とJR九州の歴史―」
期間○令和5年9月19日(火)～10月20日(金)
場所○九州大学箱崎サテライト総合研究博物館常設展示室
主催○九州大学鉄道研究同好会
共催○九州大学総合研究博物館

- 科研成果書籍出版記念展示
「帝国日本と森林 ―近代東アジアにおける環境保護と資源開発―」
・第三期 東京農工大学科学博物館会場
期間○令和5年10月27日(金)～12月23日(土)
場所○東京農工大学科学博物館本館2階 シャルドンネギャラリー
主催○東京農工大学科学博物館、九州大学総合研究博物館
協力○九州大学農学部

- ・第四期 帝京大学総合博物館会場
期間○令和6年1月20日(土)～4月16日(火)
場所○帝京大学総合博物館 企画展示室
(ソラテオスクエア地下1階)
主催○帝国日本と森林出版記念巡回展実行委員会
共催○九州大学総合研究博物館、帝京大学総合博物館
協力○九州大学農学部、東京農工大学科学博物館

- 「モンゴル高原の牧畜社会の始まりを探る」
期間○令和5年12月4日(月)～令和6年3月25日(月)
場所○フジギャラリー
主催○九州大学大学院人文科学研究所考古学研究室、
九州大学総合研究博物館

- 「近世・近代植物描画」
期間○令和6年1月15日(月)～2月29日(火)
場所○九州大学箱崎サテライト総合研究博物館常設展示室
主催○九州大学総合研究博物館、九州大学医学図書館
共催○科学基盤B「東アジアの Multidisciplinary
Science」としての本草学の再構成」

- 人とモノのものがたり「ランドセル展」
期間○令和6年2月7日(水)～2月20日(火)
場所○フジギャラリー
主催○共創学部ランドセル展学生有志

- 「白亜紀の黄昏 ―前田晴良副館長 退職記念展示―」
期間○令和6年2月16日(金)～5月31日(金)
場所○フジギャラリー
主催○九州大学総合研究博物館

講演会等

- 「フィールドの学 ―古生物学と考古学―」
日時○令和6年2月17日(土) 14時30分～17時10分
場所○九州大学伊都キャンパスイーストゾーン大講義室Ⅱ
主催○九州大学総合研究博物館

- 科博オンライン・セミナー ～サイエンスコミュニケーション
初級編～
「児童向け出版物・展示を通じた昆虫の普及啓発」
丸山 宗利(九州大学総合研究博物館准教授)
日時○令和6年3月1日(金)17時30分～19時
場所○オンライン形式
主催○国立科学博物館

サテライト展示

- 福岡県のクワガタ
期間○令和4年2月24日～
場所○糸島市立糸島市図書館二文館

- 福岡県のクワガタ
期間○令和4年2月24日～
場所○糸島市立伊都文化会館

- 福岡県の蝶
期間○令和4年2月24日～
場所○糸島市立志摩歴史資料館

文化庁 Innovate MUSEUM 事業

- まちの学芸員募集説明会
・第1回
日時○令和5年10月7日(土)14時～16時
場所○九州大学総合研究博物館
話題提供○伊藤 泰弘(九州大学総合研究博物館准教授、
データベース、古生物)
・第2回
日時○令和5年10月23日(月)19時～21時
場所○もも庵
話題提供○飯島 秀治(九州大学人間環境学研究院、共生
社会システム論)
・第3回
日時○令和5年11月6日(月)19時～21時
場所○箱崎公民館
話題提供○本間 友(慶應義塾大学ミュージアム・commons、
美術史・文化財科学・博物館学)
・第4回
日時○令和5年12月10日(日)14時～16時
場所○ハコ町屋
話題提供○箕浦 永子(人間環境学研究院、都市史・
都市計画史・東洋建築史)

- まち de ミュージアム
日時○令和5年11月18日(土)10時～16時
場所○九州大学総合研究博物館とその周辺
主催○九州大学総合研究博物館

- みどりのねっこワーク
日時○令和5年12月17日(日)10時～16時
場所○九州大学総合研究博物館とその周辺
主催○九州大学総合研究博物館

ワークショップ他

- 「博物館でぬりえをつくろう!」
日時○令和5年10月22日(日)13時～15時30分
場所○九州大学総合研究博物館
主催○C.L.C works、九州大学総合研究博物館
協力○九州大学大学院統合新領域学府ユーザー感性
スタディ専攻
- 「数学的切り絵アート体験会」
日時○令和5年11月9日(木)10時～12時、13時30分
～15時30分
場所○フジギャラリー
主催○九州大学総合研究博物館
共催○九州大学大学院数理学部
後援○九州大学大学院数理学研究院、九州大学理学部、
九州大学マス・フォア・インダストリ研究所

- 「絵本とともに色づけワークショップ」
日時○令和5年11月25日(土)11時～14時
場所○萇崎宮参道参集殿2階
主催○箱崎道実行委員会
共催○C.L.C works
協力○九州大学総合研究博物館、PLUS COSME
PROJECT

その他の活動状況

Others

運営委員会

- 令和5年11月22日(書面)
- 令和5年12月27日(WEB)



総合研究博物館では2022年、新たに用途特定寄附金を設置しました。皆様からの以下2つのご寄付を受け付けています。

『博物館活動充実基金』

○当館は、本学の教育・研究・医療の歴史の中で収集された約155万点にのぼる貴重な標本・資料を管理し、新たな教育・研究へ活用するために尽力しています。皆様からのご寄付は、博物館活動をさらに充実させるとともに、今後の博物館の整備等に必要なる諸事業に活用いたします。

▼詳しくは総合研究博物館 HP をご参照下さい

【九州大学総合博物館・博物館活動充実基金(kyushu-u.ac.jp)】
<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/information/museumfund.html>



用途特定寄附金

『総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業』

○当館は、九大百年の歴史的エリアである箱崎サテライトにおいて令和10年にリニューアルオープンします。また伊都キャンパスに伊都標本資料研究・教育プラントを令和5年に設置しました。リニューアルに際し、箱崎と伊都をつなぐ、大規模な展示施設の整備を企画しています。皆様からのご寄付は、展示・開示活動を核とした情報発信、地域連携、社会教育などの諸活動のさらなる拡充と機能強化に活用いたします。

▼詳しくは九州大学基金のHPをご参照下さい

【九州大学総務部同窓会・基金課基金係：総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業】
https://kikin.kyushu-u.ac.jp/news/view.php?cld=1558&_search=&mode=1&page=1

